

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	成人看護学概論	単位 1単位	ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題を理解する。様々な個人の生活様式や多様な価値観の中で生活する成人期にある対象の健康問題を理解する		
担当講師	富山 美加 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:7年以上	時間数 30時間	成人期における健康の保持増進・疾病予防の援助と看護の役割を理解する 成人保健の動向および看護の役割について理解する		
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	成人と生活	対象理解:大人になること、大人であること ・発達課題・発達段階 ・対象の生活、働いて生活を営むこと ・仕事とは、労働実態と社会状況	講義	基礎分野 心理学 哲学 教育学
	2	生活と健康	・成人を取り巻く環境と生活から見た健康 ・人口・経済・成人を取り巻く環境の諸問題、成人の健康の状況 ・死因順位、職業性疾病、メンタルヘルス	講義	文化社会学 人間関係論演習 マネジメント論
	3	生活と健康を守りはぐくむシステム	健康日本21、がん対策基本法 医療法の改正 福祉に関わる対策(障害者福祉、高齢者福祉) 保健・医療・福祉システムの連携	講義	専門基礎分野 臨床薬理学 疾病治療論 リハビリテーション療法
	4	健康をはぐくむ看護	健康生活をはぐくむ看護の場と活動 ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ	講義 グループワーク	食事療法 保健医療論 公衆衛生学
	5	成人への看護アプローチの基本	大人の健康行動の捉え方と大人の健康行動を促進する看護アプローチ 成人教育学の特徴、大人の学習のプロセス、大人の学習への援助 行動変容を促す看護アプローチ	講義 グループワーク	関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ
	6	生活とストレス	健康バランスの構成要素 健康バランスに影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題とその予防	講義 グループワーク	専門分野 看護学概論 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ
	7	健康生活の急激な破綻から	健康の急激な破綻	講義	成人援助論Ⅲ
	8	回復を促す看護	急激な健康破綻をきたした人の看護	グループワーク	成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ
	9	健康生活の慢性的な揺らぎの	慢性的な健康状態の揺らぎと慢性病	講義	
	10	再調整促す看護	慢性病を持ちながら生活していくうえで絶え間ない 取り組み・努力 セルフケア 慢性病との共存を支える看護	グループワーク	
	11	障害を持ちながらの生活と	障害をもつ人とリハビリテーション	講義	
	12	リハビリテーション	障害をもち生活する人を支援する看護	グループワーク	
	13	人生の最期のときを支える看護	終末期医療の現状 終末期医療における3つの概念	講義	
	14		人生の最期のときを過ごしている人の理解	グループワーク	
15	終講試験	人生の最期のときを支える看護 筆記試験			
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 看護のための人間発達学 第5版 医学書院				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	成人援助論 I	単位 1単位	恒常性維持が困難になった対象を疾患、機能・病態と治療から捉えて特徴を理解しその看護を学ぶ。内部環境調整機能に障害をもつ患者の看護では生活習慣病や慢性期疾患を持ちながら身体障害と共存していく対象への教育的アプローチを学ぶ。腎機能疾患をもつ患者の看護では多臓器疾患との関連や医療の動向、透析治療と導入を行う患者の看護を通して、慢性疾患の増悪からシャント造設を行い退院に向けて自己管理していく患者の看護を学ぶ		
担当講師	田中 友香 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	身体障害と共存する患者の看護 慢性期の患者の看護	セルフケア 成人の学習支援、自己効力感 エンパワーメント	講義	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2	内分泌系疾患患者の看護	視床下部-下垂体系疾患患者の看護	講義	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学 I 看護形態機能学 II 看護形態機能学 III
	3		甲状腺、副甲状腺疾患患者の看護 内分泌器官の構造と機能、病態・検査・処置 症状に対する看護	グループワーク	
	4		糖尿病患者の看護(事例展開)	講義	
	5		・機能と病態、検査・処置と看護	グループワーク	臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療 II 病態と治療 IV
	6		・機能別アセスメント (健康管理・健康知覚、栄養・代謝、排泄) 看護問題の抽出、看護計画		
	7		血糖測定		
	8	事例検討発表		発表	
	9	腎機能疾患を持つ患者の看護	腎臓の構造と機能、検査・処置、症状に対する看護 腎不全とAKI・CKD、糖尿病性腎症 医療の動向	講義	専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術 I 経過に応じた看護技術 II
	10	透析療法を受ける患者の看護	血液透析、腹膜透析を受ける患者の看護 腎移植を受ける患者の看護	講義 グループワーク	看護の思考過程 ヘルスアセスメント 基礎統合演習
	11	糖尿病性腎症から透析導入となった患者の看護	事例展開	講義	成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	13		機能別アセスメント (健康管理・健康知覚、排泄、栄養代謝)	グループワーク	
	14	退院指導	食事指導、日常生活への看護	発表 講義	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	成人援助論Ⅱ	単位 1単位	消化機能障害、代謝機能障害をもつ患者の病態と治療、機能障害から起こる症状に対する看護を学ぶ。消化機能障害をもつ患者の看護では事例を用いて、急性期から回復期へ向かう患者の障害受容、ボディイメージの変化、退院後の生活指導を学ぶ。代謝機能障害をもつ患者の看護では、エンドオブライフケア期(終末期)にある対象の苦痛・苦悩と症状の緩和に向けた援助について学ぶ		
担当講師	池内 純子 看護師経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
学習内容	項目	内容	教授法	関連科目	
	1	消化機能障害をもつ患者の看護	構造と病態、検査と治療 症状の看護 内視鏡を受ける患者の看護	講義	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2	ストーマ造設術を受ける 患者の看護		講義	
	3	大腸がんでストーマ造設する 患者の看護	病態と機能 術前～術後の看護	講義 グループワーク	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ
	4	事例検討	機能別アセスメント	講義	看護形態機能学Ⅲ
	5		健康管理・健康知覚、活動・休息、栄養代謝・排泄	グループワーク	臨床微生物学
	6		役割・関係、ボディイメージの変容 術後の侵襲と全身麻酔の影響 看護問題の抽出・看護計画 ストーマ管理、退院後の支援	演習	臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療Ⅱ
	7	事例検討発表		発表	
	8	疼痛緩和が必要な患者の看護	全人的苦痛の理解、末期患者の心理プロセス	講義	
	9		トータルペイン、がん性疼痛のメカニズム 疼痛緩和・症状と苦痛の緩和(オピオイド) ケアプランと意思決定支援		専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	10	肝・胆のう造影検査を受ける 患者の看護	病態と検査・治療 肝生検、硬化療法	講義	
	11	事例検討	肝臓がん(肝硬変)末期で多臓器へ転移が見られる 患者の看護	講義	
	13		機能別アセスメント (活動・運動、休息、睡眠、価値・概念、栄養・代謝) 看護計画 関連図	グループワーク	
	14	事例検討発表	安寧・安楽を考えた看護援助、腹囲測定 症状と苦痛の緩和の看護(浮腫、腹水、呼吸困難)	発表	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅲ	単位 1単位	運動機能障害をもつ患者を通して機能障害をもちながら社会復帰に向かう対象への支援を多職種連携と看護の機能から学ぶ。 血液疾患患者の看護では、疾病と付き合いながら生活してきた対象が、疾病の再発から重篤な状態に至る看護を通してその人らしく終焉を迎えるための看護について学ぶ			
担当講師	根岸 睦 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 ささまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目	
	1	リハビリテーションの特徴と	リハビリテーション看護の手技と専門化	講義	基礎分野	
	2	その看護	国際生活機能分類 障害の受容 廃用症候群の予防 代謝機能の獲得 セルフマネージメント 家族支援 社会参加 多職種チームの連携 住居のアセスメント	グループワーク	心理学 人間工学 人間関係論演習	
	3	事例検討	脊髄損傷患者の看護	講義	専門基礎分野	
	4		排便・排尿障害、性機能障害の看護	グループワーク	生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ	
	5		合併症の予防と管理 (運動麻痺、呼吸機能障害、排尿障害、排便機能障害 性機能障害、褥瘡、神武静脈血栓症) 機能別アセスメント (健康知覚・健康管理、活動・運動、セクシュアリティ 排泄、栄養・代謝) 問題抽出 看護計画		臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ	
	6	事例検討発表	対象の社会復帰を目指して		IPE教育	専門分野
	7		・多職種連携での対象の社会復帰の支援を考える		PBL	
	8	事例発表			発表	
	9	エンドオブライフケア期にある 対象の看護	スピリチュアルペイン、末期患者の心理プロセス 意思決定支援、ACP QOL	講義	経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 基礎統合演習	
	10	血液疾患の患者の看護	医療の動向 病態と治療 疾患を持つ患者の経過と看護 症状とマネジメント 化学療法と看護、輸血と看護	講義	成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理	
	11	事例検討	血液疾患患者の看護(白血病)	講義	グループワーク	
	12		病態と治療、その看護	グループワーク		
	13		機能別アセスメント (活動・運動、休息、睡眠、価値・概念、栄養・代謝) 援助計画 関連図			
	14	看護援助	対象の安寧と安楽を考えた看護援助	演習		
15	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 看護技術プラクティス 第4版(動画付き) 学研					

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	成人援助論Ⅳ	単位 1単位	呼吸器疾患の患者の事例を通して、周術期にある患者の身体侵襲とその看護を学ぶ		
担当講師	原田 雅美 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間	手術前・中・後の患者の変化から予想の視点と術後の合併症の予防とリスク管理について、ゴードンの機能別アセスメントシートを用いて対象の疾患・病態生理から対象の状況と変化を捉え個別性のある看護を考える 急性期から回復過程にある患者の退院後小生活を見据えた生活指導、急変時の対応などクリティカルケアについて学習する		
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	手術期の患者の看護	生体反応と身体侵襲	講義	基礎分野
	2		術後の合併症とその成り立ち、看護 創傷治癒過程とその看護		心理学 人間工学 人間関係論演習
	3	呼吸器疾患患者の看護	肺がんの検査、治療と看護 閉塞性肺疾患、気管支喘息患者の看護	講義	専門基礎分野
	4	手術を受ける患者の看護	術前の患者の看護 ・術前のインフォームドコンセント ・術後の合併症を見据えた術前検査と準備 ・肺がんの検査、治療	講義	生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法
	5		術中の患者の看護		疾病治療論 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅳ
	6		術後の患者の看護		
	7	人工呼吸器を装着している患者の看護	気管内吸引	演習	
	8	事例検討	肺がんで手術を受ける患者の看護 看護問題の抽出 看護計画の立案 実施・評価 機能別アセスメント (健康知覚・健康管理、活動・運動、排泄、栄養・代謝 役割・関係)	講義 グループワーク	専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	10				
	11	術直後の患者の援助	術直後の患者のフィジカルアセスメント 離床時の援助	発表	
	12	回復を促進する看護	創傷処置とドレーン管理の実際 胸腔ドレナージ、排痰ドレナージ 末梢循環ケア(弾性ストッキング)	講義 グループワーク	
	13	退院後を見据えた看護		講義 グループワーク	
	14	発表	事例検討における術直後のフィジカルアセスメントの看護	発表	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	成人援助論Ⅴ	単位 1単位	現代の救急医療の現状と救急医療システム、初期対応とアセスメントについて学ぶ		
担当講師	石川 清美 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間	循環器疾患患者を通して救急搬送時のアルゴリズム(検査、治療)、症状に対する看護、包括的リハビリテーションと退院に向けた支援・退院指導を一連の看護展開の中で学ぶ		
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	急性期の看護	急性期看護の対象と心身の特徴 治療の特徴と患者、家族への影響	講義	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2	救急看護	救急看護の特殊性、救急医療体制と救急システム	講義	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療Ⅱ
	3		緊急性と重症度のアセスメント 全身状態の外観の観察とアセスメント 重要病態に対する救急処置と看護 (中毒・熱傷・ショック)	グループワーク 演習	
	4		重症集中ケアの看護	講義 グループワーク	
	5	循環器疾患患者の看護	病態、治療、検査、処置と看護 医療の動向	講義	
	6		12誘導心電図、モニター装着している患者の看護	演習	
	7		不整脈の治療と看護 恒久的ペースメーカ植え込み術を受ける患者の看護	講義 グループワーク	
	8	事例展開	虚血性心疾患(心筋梗塞)で心臓カテーテル検査を受ける患者の看護	講義	専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	10		病態と看護 機能別アセスメント (健康知覚・健康管理、活動・休息、排泄、栄養・代謝 役割・関係、コーピング、ストレス) 看護問題の抽出と看護計画	グループワーク	
	11		包括的リハビリテーションと退院指導 セルフマネジメント(禁煙指導) 運動負荷試験	講義 グループワーク	
	12	BLS		演習	
	13				
	14	発表	事例検討発表	発表	
	15				
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション療法 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 医学書院				

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	老年看護学概論	単位 1単位	老年看護の対象を理解し、老年看護の動向と機能と役割について理解する 近年の社会構造の変化を理解し、老年期における人々の保健・医療・福祉の動向と対策について理解する		
担当講師	清水 弘子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	超高齢社会の統計学的輪郭	超高齢社会の現況	講義	基礎分野 心理学 文化社会学
	2	老年看護の対象理解	加齢に伴う変化と老化 恒常性を土台とした4つの力の変化 疾病をめぐる特徴	講義	
	3		加齢に伴う心理的側面の変化 知能 人格 創造性 セクシュアリティ	演習	
	4		加齢に伴う社会的側面の変化 高齢者が生きてきた時代背景とライフヒストリー 社会参加 高齢者のいる世帯 暮らし		専門基礎分野
	5		高齢者の定義と老年観 老年期の発達段階・発達課題	講義 講義	看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ
	6		高齢者擬似体験	演習	保健医療論 公衆衛生学
	7	老年看護における倫理的課題と 権利擁護	高齢者差別と虐待 権利擁護のための制度	講義	社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	8	高齢社会における	高齢社会における保健医療福祉の動向	講義	
	9	保健医療福祉制度	老人福祉法 老人保健法 介護保険法の目的と理念 制度の仕組みとサービス 地域包括ケア 地域包括支援センター 高齢者医療確保法 新オレンジプラン		専門分野 看護学概論 地域・在宅看護概論
	11	老年看護の特徴と役割	老年看護の特徴と役割 エンパワメント 意思決定 生活機能の最大限の回復 多職種連携	講義	老年援助論Ⅰ 老年援助論Ⅱ 老年援助論Ⅲ
	12		老年看護における理論・概念の活用	講義	成人看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論
	13	健康段階別の高齢者への援助	高齢者のヘルスプロモーション 介護保険施設における高齢者の看護 地域で治療・介護を必要とする高齢者と家族の看護 リスクマネジメント エンドオブライフケア	講義	医療安全 看護の統合と実践 看護管理・看護倫理
	14			演習	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験 (9割) レポート(1割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患編 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 看護のための人間発達学 第5版 医学書院				

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	老年援助論 I	単位 1単位	老年期の特徴と疾病の症状、病態生理を理解しおもな治療および看護について学ぶ		
担当講師	本江 真人 看護師臨床経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	高齢者の特徴的な症状として 老年症候群	老化の生理と病態 老年症候群	講義	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2	老年期の疾患とアセスメント	呼吸・循環器系の疾患と症状 感染症/尿失禁のアセスメント	講義	
	3		消化器・代謝・内分泌系の疾患と症状 摂食と嚥下障害/脱水/低栄養と貧血のアセスメント (酸塩基平衡・浮腫・脱水)	講義	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学 I 看護形態機能学 II 看護形態機能学 III 臨床薬理学
	4		腎泌尿器・血液系・皮膚疾患と症状 便・尿失禁のアセスメント/清潔の変調のアセスメント	講義	
	5		運動・免疫系・アレルギー・リウマチ性疾患と症状 ADL低下/廃用症候群/転倒転落のアセスメント	講義	専門分野 看護学概論 看護の思考過程 看護の統合と実践
	6		精神・神経系の疾患と症状(構音障害や失語症も含む) 老年期鬱/せん妄/認知機能低下/睡眠障害の アセスメント	講義	
	7	高齢者と薬	高齢者と薬 薬理学「薬が作用する仕組み(薬力学)参照」 腎毒性 高齢者の安全な薬物治療	講義	
8	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患編 医学書院				

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	老年援助論Ⅱ	単位 1単位	高齢者特有の疾病や障害の特徴を理解し、経過の特徴に応じた健康の保持増進や回復への援助について学ぶ 検査・治療をうける高齢者への看護についても学ぶ			
担当講師	栗岡 美千代 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	回	項目	内容	教授法	関連科目	
	1	高齢者のヘルスアセスメント 健康逸脱からの回復を促す看護	身体に加齢変化とアセスメント 外皮系・感覚系・循環系・呼吸器系 症候のアセスメントと看護 発熱 痛み 掻痒 脱水 嘔吐 浮腫 倦怠感	講義	基礎分野 人間工学 人間関係論演習	
	2	治療を必要とする高齢者の看護	治療を必要とする高齢者の看護 入院治療・検査・薬物療法・手術療法	講義	専門基礎分野 疾病治療論	
	3	高齢者のリハビリテーション	高齢者のリハビリテーションと看護 高齢者の自宅医療とエンドオブライフケア	講義	リハビリテーション療法 食事療法 臨床薬理学	
	4	高齢者への日常生活援助	おむつ交換 ベッド上での陰部洗浄は、基礎へ移動) トイレでの排泄援助(車いすや杖でトイレまで/入浴介助)	演習		
	5	身体疾患のある高齢者の看護ケア	骨折/骨粗鬆症/大腿骨頸部骨折	講義	専門分野 看護学概論 共通看護技術Ⅰ 共通看護技術Ⅱ 共通看護技術Ⅲ 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ	
	6		変形性関節症 感染症:インフルエンザ・肺炎 脳血管疾患:パーキンソン病 認知症 慢性閉塞性肺疾患 心不全 疥癬	GW発表		
	7		事例展開①	健康障害のある高齢患者の看護過程の展開		講義
	8		入院加療が必要な老年期の対象 と家族への援助	誤嚥性肺炎に罹患した対象への援助		演習
	9			ホリスティックな対象の理解と目標志向型思考		
	10			「コアとなる情報」「生活行動」の情報収集と解釈分析		
	11		対象の望む回復像と看護の焦点		医療安全 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践	
	12	事例①を用いた援助	誤嚥性肺炎でNGチューブや胃瘻挿入中の人への看護援助(口腔ケアも含む)	講義 演習		
	13	事例①を用いた シミュレーション演習Ⅱ	「もてる力を活用した看護計画の実施」	シミュレーション 演習		
	14					
	15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(7割) レポート(3割:事例展開・ATC見学レポート) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患編 医学書院					

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 2年次	科目のねらい	
授業科目	老年援助論Ⅲ	単位 1単位	多様な健康レベルにある老年期の対象とその家族を総合的にアセスメントし、対象に応じた看護を展開できる能力を養う	
担当講師	岸本 早央里 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:1年以上	時間数 30時間		
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる			
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる			
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる			
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる			
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる			
回	項目	内容	教授法	関連科目
1	高齢者の特徴をいかした 看護過程の考え方	高齢者の特徴を踏まえた看護展開 「生活行動モデル」の概念・枠組みと活用方法	講義	基礎分野
2	高齢者の生活機能を整える看護	活動 基本動作と環境、転倒、廃用性症候群 アセスメントと看護 評価指標 麻痺のある対象の移乗動作、良肢位の保持 廃用症候群予防の援助(自動・他動運動)/ ポジショニングも	講義 演習	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ～Ⅲ 病態生理学総論 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法
3	高齢者の生活機能を整える看護	食事・食生活 高齢者に特徴的な摂食嚥下機能と栄養状態の変調 食生活のアセスメントと支援、栄養ケア・マネジメント	講義	病態と治療Ⅰ～Ⅴ 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
4	高齢者の生活機能を整える看護	排泄 排泄障害の特徴 排泄のアセスメントと尊厳をまもる排泄ケア	講義	専門分野 看護学概論 看護の思考過程 ヘルスアセスメント
5	高齢者の生活機能を整える看護	清潔(身じたく) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 清潔のアセスメントと援助	講義	共通看護技術Ⅰ～Ⅲ 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 家族看護論 基礎統合演習
6	高齢者の生活機能を整える看護	生活リズム(休息) 高齢者に特徴的な睡眠と覚醒の変化 生活リズムのアセスメントと看護	講義	老年看護学概論 老年援助論Ⅰ 老年援助論Ⅱ
7	高齢者の生活機能を整える看護	コミュニケーション 高齢者にみられるコミュニケーション上の特徴と コミュニケーション障害 コミュニケーション能力のアセスメントと状態・状況に 応じた看護	講義	成人看護学概論 成人援助論Ⅰ～Ⅴ 地域・在宅看護概論 訪問看護技術 訪問看護の看護過程 地域と看護 ケアマネジメント演習
8	福祉用具の活用への援助	エイジレスセンターへの見学(ATC)	演習	医療安全 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
9	認知機能障害のある 高齢者の看護	認知機能障害のある高齢者の看護 認知症高齢者のリスクマネジメント 認知症ケアと信頼関係構築の実際	講義 演習	
10	生活の再構築へ向けた看護	地域包括ケアのサービス活用 家族支援・生活支援	講義	
11	事例展開② 中長期的な療養を必要とする	退院支援・退院調整への援助 認知症高齢者の生活と療養の場における看護	講義 グループワーク	
12	老年期の対象と家族への援助	介護老人保健施設・通所施設での看護の役割・機能 地域包括ケアを基盤とした施設での生活への援助		
13		在宅復帰に向けた包括的・継続的支援 諸制度の活用とケアマネジメント		
14		多職種連携と看護の専門性		
15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(7割) レポート(3割:事例展開・ATC見学レポート) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患編 医学書院 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 医学書院(eナーストレーナー)			

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	小児看護学概論	単位 1単位	21世紀の小児看護を担う人材として、小児を理解し、複雑化・多様化する小児の健康問題を社会・家族の広い視野から洞察し、こどもの人権尊重を基盤にした小児看護のあり方を学び、小児看護の実践に活かす		
担当講師	長澤 亜由美 看護師臨床経験:10年以上 教員経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	小児看護の特徴と理念	小児看護の目指すところ 小児看護の対象 小児看護の目標と役割 小児と家族の諸統計:人口構造、出生と死亡	講義	基礎分野 心理学 文化社会学
	2	小児看護の変遷	小児看護の歴史、子ども観の変遷、小児医療の変遷	講義・演習	
	3	小児看護における倫理	子どもの権利と歴史的流れ、児童憲章 子どもの権利条約の特徴 子どもの権利を守る倫理 小児看護の課題	講義	
	4	子どもと家族を取り巻く社会	児童福祉:児童福祉の変遷と虐待 母子保健	講義	専門基礎分野 病態と治療VI
	5	子どものヘルスプロモーションと看護	医療費の支援:未熟児養育医療 小児慢性疾患特定疾患治療研究事業 予防接種:歴史と現在の予防接種	講義	社会福祉Ⅰ・Ⅱ 関係法規Ⅰ・Ⅱ
	6		学校保健 学校保健の歴史、健康診断、感染予防 食育、特別支援教育、臓器移植	講義	
	7	子どもの成長・発達と看護	成長・発達とは 成長・発達の進み方と影響する因子 成長・発達の評価	講義	専門分野
	8	新生児の成長・発達	新生児 形態的特徴、身体生理の特徴 新生児の養育および特徴	講義	看護学概論 家族看護論 小児援助論Ⅰ
	9	乳児の成長・発達	乳児 形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達 乳児の養育および特徴	講義	小児援助論Ⅱ 小児援助論Ⅲ
	10	幼児の成長・発達	幼児 形態的特徴、感覚・運動・知的機能の発達 ピアジェの認知発達の理論 運動機能の発達による遊びの種類の増加	講義	母性看護学概論 精神看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	11	学童期の成長・発達と支援	学童 形態的特徴、感覚・運動・知的機能の発達 幼児の養育および看護	講義	
	12	思春期・青年期の子ども	思春期・青年期の身体的発達の特徴 知的・情緒的・社会的機能の発達 不適応行動 性教育、安全教育 思春期の看護	講義	
	13	病気・障害を持つ子供と家族の看護	病気・障害が子供と家族に与える影響 子どもの健康問題と看護 健康問題を持つ子供の家族の看護	講義	
	14	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	入院中の子供と家族の看護 外来における子供と家族の看護 在宅療養中の子供と家族の看護 災害時の子供と家族の看護	講義	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 看護のための人間発達学 第5版 医学書院				

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	小児援助論 I	単位 1単位	健康障害をもつ小児と家族が生活・療養するために必要な看護を学ぶ		
担当講師	久松 千恵子 医師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	染色体異常・胎内環境により 発症する先天異常と看護 新生児の看護	出生前 出生後の看護 おもな染色体異常疾患をもった小児の看護 低体重出生児の看護	講義	基礎分野
	2	疾患別・状況に応じた看護	代謝性疾患	講義	専門基礎分野 病態と治療VI
	3		内分泌疾患		
	4		免疫疾患・アレルギー疾患		
	5		感染症(麻疹・風疹など)		
	5		呼吸器疾患 循環器疾患 消化器疾患 血液・造血器疾患 悪性新生物 腎・泌尿器及び生殖器疾患 神経疾患 皮膚疾患 耳鼻咽喉疾患 精神疾患 事故・外傷の看護		
	6	健康障害をもつ小児の生活と看護	経過別の看護	講義	
	7		処置・検査を受ける小児の看護		
	8		(薬物療法、吸入、点滴、採血、与薬 など)		
	9		生活制限のある小児と家族の看護 疾病や障害が小児と家族に与える影響		
	10	症状のある小児への看護	痛み、呼吸器・循環器系の症状、発熱など	講義	
	11				
	12	心身障害のある小児	障害の捉え方、小児、家族の特徴	講義	
	13		社会的支援		
14	小児の虐待と看護				
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験 (10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座	専門分野	小児看護学概論・小児臨床看護総論	医学書院	
	系統看護学講座	専門分野	小児臨床看護各論	医学書院	

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	小児援助論Ⅱ	単位 1単位	小児期にある対象とその家族への日常生活援助と、対象にとって安全で安楽な療養生活を送れるような小児看護ケアを学ぶことで、小児看護に必要な知識・技術・態度を身につける		
担当講師	藤田 慧 看護師臨床経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 ささまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	小児に必要な看護技術 検査・処置を受ける子どもの看護	コミュニケーション 成長発達のアセスメント バイタルサイン測定 フィジカルアセスメント ベッド柵の操作 遊び	講義	基礎分野 専門基礎分野 病態と治療Ⅵ
	2	子どもの安全・安楽	ディストラクション 子どもの安全 身体測定 プレパレーション 点滴管理 抗生剤・点滴の計算 保清 感染予防 抑制	講義	専門分野 ヘルスアセスメント 家族看護論 小児看護学概論 小児援助論Ⅰ 小児援助論Ⅲ 医療安全
	3	バイタルサイン測定	演習		
	4	日常生活援助	演習		
	5.6	プレパレーション	グループワーク		
	7	プレパレーション	発表		
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(5割) 課題提出およびグループワーク発表(5割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院				

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	小児援助論Ⅲ	単位 1単位	小児期にある対象とその家族の事例を通して情報の整理、看護計画の立案、実施、追加、修正のプロセスを実施することで、小児看護に必要な知識、看護過程の展開の技術・態度を身につける		
担当講師	長澤 亜由美 看護師臨床経験:10年以上 教員経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1 5 6	小児の看護過程の展開	事例展開: 虫垂炎・川崎病 ネフローゼ症候群・気管支喘息の子どもと家族 看護過程、情報収集の視点 アセスメント 関連図の書き方 看護問題の抽出 ケアプランの立て方	講義 グループワーク	基礎分野 専門基礎分野 病態と治療VI
	7		グループ毎に発表し共通理解をする	発表	専門分野 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 家族看護論
	8	終講試験	筆記試験		経過に応じた基本技術 I 経過に応じた基本技術 I 小児看護学概論 小児援助論 I 小児援助論 II 医療安全 看護管理・看護倫理
評価方法	筆記試験(5割) 課題提出およびグループワーク発表(5割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 医学書院				

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	母性看護学概論	単位 1単位	次世代の健全な育成と、性と生殖の健康について理解し、女性の生涯にわたる健康の保持増進に向けての課題や看護の役割について学ぶ		
担当講師	増本 綾子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 20時間			
教育目標	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	母性看護の基盤となる概念 対象理解の基盤となる概念	母性、父性、親性 母親役割、父親役割 母子相互作用、愛着形成 婚姻、家族の発達・機能	講義	基礎分野 文化社会学
	2	リプロダクティブヘルス/ライツ	リプロダクティブヘルスの概念 世界の現状、日本の課題 ヘルスプロモーション エンパワメント	講義	専門基礎分野 看護形態機能学Ⅲ 病態と治療Ⅴ
	3	セクシュアリティ	セクシュアリティ、セックス、ジェンダー 性の多様性 トランスジェンダー	講義	公衆衛生学 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	4	母性看護における倫理	プライバシーの保護、意思決定 生殖にまつわる倫理的課題 出生前診断、生殖補助医療、人工妊娠中絶	講義	社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ
	5	社会の変遷と動向	歴史的変遷 出生に関する統計 周産期の死亡に関する統計 母子保健に関する施策や法律	講義	専門分野 看護学概論 家族看護論 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論
	6	女性のライフサイクル各期の看護 思春期・成熟期女性の健康と看護	現代女性のライフサイクル 第二性徴、月経周期 月経異常、月経随伴症状、女性生殖器疾患 性行動、生殖 家族計画、受胎調節、性感染症、不妊症 性暴力、DV	講義	母性援助論Ⅰ 母性援助論Ⅱ 母性援助論Ⅲ 看護管理・看護倫理
	7	更年期・老年期女性の健康と看護	ホルモンの低下、閉経 更年期症状、骨粗鬆症 加齢による変化 尿失禁、骨盤臓器脱、外陰炎 家族の再構築 空の巣症候群、うつ	講義	
	8	女性の健康課題への支援	女性のライフサイクルにおける健康課題とその支援	グループワーク	
	9		グループワーク発表		
10	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	母性援助論 I	単位 1単位	正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と看護実践能力を養うとともに、ウェルネスの視点で対象に関わり、適切な時期に応じた援助について学ぶ		
担当講師	宮崎 貴子 助産師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	妊娠期における看護	妊娠期の身体的変化 胎児の発育とその生理、母体の生理的变化 妊娠期の心理・社会的変化 妊婦の心理、妊婦と家族および社会	講義	基礎分野
	2	分娩期における看護	妊婦と胎児のアセスメント 身体的健康状態の診断 日常生活に関するアセスメント	講義	専門基礎分野 看護形態機能学Ⅲ 病態と治療Ⅴ
	3		妊婦と家族への看護 妊婦の保健相談 親になるための準備教育	講義	
	4		分娩の3要素、分娩の経過 分娩の進行と産婦の身体的変化 産婦の心理・社会的変化	講義	
	5	産褥期における看護	産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と胎児の健康状態のアセスメント 産婦と家族の心理・社会的アセスメント	講義	専門分野 看護学概論 家族看護論 母性看護学概論 母性援助論Ⅱ 母性援助論Ⅲ
	6		産婦と家族の看護 安全・安楽な分娩への看護 基本的ニーズに関する看護	講義	
	7		産褥期の身体的変化 子宮の復古、全身の復古、乳汁の分泌	講義	
	8	産褥期における看護	産褥期の心理・社会的変化 母親、父親への適応過程 マタニティブルー	講義	
	9		褥婦のアセスメント 褥婦の健康状態のアセスメント 日常生活に関するアセスメント	講義	
	10		褥婦と家族の看護 身体機能回復への看護 育児に関わる看護 産後うつ予防	講義	
	11	新生児期における看護	新生児の生理 新生児の生理的特徴と機能	講義	
	12		新生児のアセスメント 新生児の健康状態と発育のアセスメント	講義	
	13		新生児の看護 出生直後の看護 出生直後～退院までの看護	講義	
	14	退院後の新生児の看護 切れ目のない支援	退院後の新生児の看護	講義	
15	終講試験 筆記試験				
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院				

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	母性援助論Ⅱ	単位 1単位	子どもを産み育てる過程において、特別なニーズをもつ妊産婦、新生児への看護を学ぶ		
担当講師	宮崎 貴子 助産師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	妊娠期の健康問題に対する看護 ハイリスク妊娠	妊娠に合併する全身疾患 慢性高血圧症、心疾患、糖尿病など 妊娠期の感染症 風疹、トキソプラズマ症、B型肝炎、GBSなど 妊娠疾患 妊娠高血圧症候群、流・早産、子宮外妊娠など	講義	基礎分野
	2	ハイリスク妊婦の看護	身体的ハイリスク妊婦 合併症を有する妊婦 切迫流・早産の妊婦	講義	専門基礎分野 看護形態機能学Ⅲ 病態と治療Ⅴ
	3		社会的ハイリスク妊婦 高年妊婦、若年妊婦、不妊治療後の妊婦 シングル、未受診、特定妊婦	講義	
	4	分娩期の健康問題に対する看護 分娩経過の異常	産道の異常(骨産道、軟産道) 娩出力の異常(微弱陣痛、過強陣痛) 胎児の異常(胎位の異常、回旋異常) 胎児付属物の異常 (前置胎盤、常位胎盤早期剥離、前期破水) 胎児機能不全	講義	専門分野 母性看護学概論 母性援助論Ⅰ 母性援助論Ⅲ 医療安全
	5	分娩時、分娩直後の異常	裂傷 子宮破裂、頸管裂傷、会陰裂傷 胎盤、子宮の異常 癒着胎盤、弛緩出血、子宮内反症 分娩時異常出血 産科ショック、羊水塞栓症、DIC 産科処置と産科手術 分娩誘発、帝王切開	講義	
	6	ハイリスク産婦の看護	帝王切開術を受ける産婦 異常出血のある産婦 死産・障害がある新生児を出産した親 産後精神障害のある褥婦	講義	
	7	新生児の健康問題に対する看護 ハイリスク新生児の看護	新生児仮死と蘇生 低出生体重児の看護、ディベロップメンタルケア 高ビリルビン血症と光線療法中の看護	講義	
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院				

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	母性援助論Ⅲ	単位 1単位	妊産褥婦および新生児に応じた看護が展開できる能力を養う		
担当講師	宮崎 貴子 助産師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
学習内容	回	項目	内容		
	1	母性看護における看護過程とは	母性の看護過程におけるウェルネスの視点とは マタニティサイクルにおける看護過程 母性看護に使われる看護技術	講義	基礎分野 心理学 人間関係論演習 教育学
	2	妊娠期・分娩期・産褥期 新生児期にある対象の 看護過程の展開	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象を理解し、身体的・精神的・社会的側面を考え、情報を整理し、看護計画を立案する ※「愛仁」家の事例展開	講義	専門基礎分野 看護形態機能学Ⅲ 病態と治療Ⅴ
	3	妊娠期の看護過程の展開	妊娠期の生理的変化・母性意識の形成・発展に注目して展開	講義	専門分野 家族看護論
	4		妊娠期に必要な援助技術 (着帯・レオポルド触診法・骨盤外計測)	演習	看護の思考過程
	5		保健指導技術 妊娠期の生活指導(食事・両親学級) 保健指導技術の実際	演習	母性看護学概論 母性援助論Ⅰ 母性援助論Ⅱ 医療安全 看護管理・看護倫理
	6	分娩期の看護過程の展開	分娩期の生理的変化・産婦と家族の心理状態に注目して展開	講義	
	7		分娩期に必要な援助技術 (疼痛緩和・胎盤計測)	演習	
	8	新生児期の看護過程の展開	新生児期の胎外生活適応状態、生理的特徴、清潔、栄養、養育環境に注目して展開	講義	
	9・10		新生児期に必要な援助技術 (新生児期のフィジカルアセスメント・身体計測・おむつ交換・寝衣交換・沐浴)	演習	
	11	産褥期の看護過程の展開	産褥期の退行性変化、進行性変化、母乳育児、愛着形成、親役割行動に注目して展開	講義	
	12		産褥期に必要な援助技術 (産褥期のフィジカルアセスメント・悪露交換)	演習	
			保健指導技術□ 産褥期の生活指導	演習	
	13 14		保健指導技術の実際	ロールプレイング	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(6割) レポート(4割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程				

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	精神看護学概論	単位 1単位	人間の心の動きをライフサイクルから見た発達、環境との相互作用から見た適応について学習し、こころの健康問題の発生のプロセスと健康の保持増進のための、看護の役割について学ぶ		
担当講師	長嶺 洋子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間	精神の健康と精神障害者の歴史と法制度を学ぶ 対象の精神的安寧を保ち、安楽を促進する技術について理解する		
教育目標	2 さまざまな場暮らしあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	精神看護学とは何か	精神看護学とは何か	講義	基礎分野 心理学 文化社会学
	2		日本における自殺問題とメンタルヘルス		
	3		日本の精神科医療の現状 精神科医療のニーズ 精神障害の体験と精神看護		
		精神保健の考え方	精神の健康とは 心身の健康に及ぼすストレスの影響 トラウマと回復	講義	専門基礎分野 公衆衛生学 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	4	心のはたらき	意識・感情・学習と行動・知能 心の理論・心理検査	講義	
	5	心の仕組み	パーソナリティとは	講義	専門分野 看護学概論 共通看護技術Ⅰ 家族看護論 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅱ 精神援助論Ⅲ
	6		意識と無意識		
	7		自我の防衛機制 ライフサイクルとアイデンティティ 自己概念と役割		
	8	関係の中の人間	システムとしての人間関係 全体としての家族	講義	
	9	社会のなかの精神障害	精神障害の治療の歴史	講義	
	10		西洋・日本 精神障害と文化・社会学 精神障害と法制度 精神保健福祉法 障害者総合支援法 精神科領域に必要な法律と制度		
	11	看護者としての自己理解	マインドフルネス	講義・演習	
	12	精神的安寧を保つ援助	アロマセラピー	講義・演習 研修	
	13		ハーブの効力 アロマを用いたハンドマッサージ 他		
14		音楽療法 音楽の効力と音楽療法の実際	講義・演習		
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院				

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい							
授業科目	精神援助論 I	単位 1単位	主な精神疾患と障害の原因・症状・検査・治療について学ぶ							
担当講師	杉林 稔 医師臨床経験:10年以上	時間数 20時間								
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる									
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる									
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目					
	1	人間の心のはたらきと パーソナリティ	人間の心の諸活動 心のしくみと人格の発達	講義 DVD	基礎分野 心理学					
	2	精神症状論と状態像	症状とは何か							
	3		さまざまな精神症状							
	4		感情の障害 意欲の障害 知覚の障害 意識の障害 記憶の障害			専門基礎分野				
	5	精神障害の診断と分類、治療	DSMとICDの分類							
	6		統合失調症							
	7		気分障害 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 精神作用物質使用による精神および行動の障害 発達段階で現れやすい精神障害・心的不調 知的障害、発達障害、摂食障害 パーソナリティ障害、適応障害、心身症					専門分野 精神看護学概論 精神援助論Ⅱ 精神援助論Ⅲ		
	8	精神科での治療	精神科における治療							
	9		薬物療法・電気けいれん療法 精神療法 環境療法・社会療法							
10	終講試験	筆記試験								
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする									
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院									

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	精神援助論Ⅱ	単位 1単位	精神障害者を理解し、治療的人間関係を学び、精神疾患の症状に対する援助を学ぶ		
担当講師	村井 隆二 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間	状態に応じて自立を支援出来るような援助方法を学ぶ 精神障害と身体疾患をつなぐリエゾン看護について学ぶ		
教育目標	2 ささまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	ケアの人間関係	ケアの前提、原則、方法 関係をアセスメントする 患者－看護師関係における感情体験	講義 講義	基礎分野
	2	治療的コミュニケーション	関係をアセスメントすること プロセスレコードの活用		専門基礎分野
	3	人権を守るということ	精神疾患を抱える人の人権を守るということ		
	4	回復を支援する	回復の意味と環境 回復のプログラム	講義	
	5	入院治療の意味	治療的環境 観察とアセスメント ケアの方向性 退院に向けて		専門分野
	6	身体をケアする	精神科における身体のケア	講義	看護学概論 精神看護学概論 精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅲ
	7		身体にあらわれるこころの痛み 精神科の治療と身体のケア 日常から気を付けておきたい身体合併症 精神科における身体のケアの実際 睡眠と援助		
	8	安全を守る	リスクマネジメントの考え方と方法 緊急事態に対処する		
	9	医療の場におけるメンタルヘルス と看護	身体疾患と精神看護 リエゾン精神看護	講義	
	10	症状・状態別看護	せん妄	講義	
	14		不安、睡眠障害、幻覚、妄想のある患者の看護 強迫性障害、双極性障害、攻撃的行動などの看護 パーソナリティ障害、多飲症、混迷		
	14		摂食障害、引きこもり状態にある患者の看護		
	15	終講試験	筆記試験		
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院				

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	精神援助論Ⅲ	単位 1単位	精神障害を持つ対象の状況に応じた看護を展開する能力を養う		
担当講師	長嶺 洋子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる				
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	精神科における看護過程の理論	オレム・アンダーウツドのセルフケア理論とは	講義	基礎分野 心理学 文化社会学
	2	看護過程の実際	情報収集アセスメント	グループワーク 発表	
	3	治療的コミュニケーション	セルフケアレベルとこころの発達		
	4		サポートシステム		
	5		ケアの人間関係	演習	専門基礎分野 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	6		コミュニケーション技術 プロセスレコード		
	7	当事者の体験	当事者の体験:アルコール依存症	演習	
8	終講試験	筆記試験		専門分野 看護学概論 共通看護技術Ⅰ 看護の思考過程 家族看護論 精神看護学概論 精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅱ 医療安全	
評価方法	筆記試験(5割) レポート(5割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院				

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	医療安全	単位 1単位	看護医療事故の種類と構造を理解し、事故の危険因子を減らす方法について学ぶ		
担当講師	大内 美穂 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	医療安全を学ぶことの大切さ (序章)	医療安全に関する用語の定義 人はなぜ間違いをおかすのか 意識状態の変動と医療安全を学ぶことの意義 人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの意義 看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務	講義 講義	基礎分野 情報科学 心理学 人間工学
	2	事故防止の考え方を学ぶ (第1章)	医療事故と看護業務 看護事故の構造 看護事故防止の考え方		専門基礎分野 保健医療論 関係法規Ⅱ
	3	診療補助業務の事故防止(Ⅰ) (第2章:総論)	業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 インシデント・アクシデント報告 事故事例の分析方法 看護業務に必要な計算方法・事例検討	講義 演習	
	4	業務領域をこえて共通する間違いと 発生要因(第5章)	業務領域を超えて共通する患者間違い 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャー 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	講義	
	5	医療安全とコミュニケーション (第6章)	不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 事故の未然防止上重要なコミュニケーション	講義	専門分野 共通看護技術Ⅰ 共通看護技術Ⅱ 共通看護技術Ⅲ ヘルスアセスメント
	6	看護師の労働安全衛生上の事故防止 (第7章)	職業感染・抗がん剤の曝露防止・放射線被爆 ラテックスアレルギー・院内暴力	講義	経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ
	7	組織的な安全管理体制への取り組み (第8章)	組織としての医療安全対策 システムとしての事故防止の具体例 重大事故発生時の医療チームおよび組織の対応	講義	成人援助論Ⅰ～Ⅴ 老年援助論Ⅰ～Ⅲ 小児援助論Ⅰ～Ⅲ 精神援助論Ⅱ・Ⅲ 地域・在宅看護概論
	8	医療安全対策の国内外の潮流 (第9章)	わが国の医療安全対策の取り組み	講義	訪問看護技術 訪問看護の看護過程
	8	診療補助業務の事故防止(Ⅰ) (第2章)	注射業務と事故防止 注射業務に用いる機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ 関連)での事故防止	講義	看護の統合と実践
	9		輸注ポンプ・シリンジポンプの事故の実際	演習	
	10		輸血業務と事故防止	講義	
	11		内服与薬業務と事故防止	講義	
	12	診療補助業務の事故防止(Ⅱ) (第3章)	経管栄養注入業務と事故防止 チューブ管理と事故防止	講義	
	13	療養上の世話における事故防止 (第4章)	療養上の世話における事故の捉え方と防止 転倒・転落事故防止 摂食中の窒息・誤嚥・異食事故防止 入浴中の事故防止	講義	
14	医療関連感染対策	基本的な医療関連感染対策	講義		
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 医学書院				

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	災害看護・国際看護	単位 1単位	災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害サイクルに応じた看護支援活動および看護の役割について学ぶ 国や文化を超えた人々の健康に関する諸問題について学び、看護の国際組織について学ぶ		
担当講師	森田 佳奈子 教育経験:10年以上 山田 友季子 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1 5 3	災害看護学	災害看護の歩み 災害医療の基礎知識 定義・種類・特徴 災害の種類と健康障害 災害時の情報、災害対応に関わる職種間・組織間連携 災害看護の基礎知識 災害看護の定義・役割 対象 特徴と看護活動 国際救護活動における看護の役割と課題 災害看護教育と研究 災害サイクルに応じた災害看護と展開 急性期・亜急性期、慢性期・復興期、静穏期 被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア	講義	基礎分野 基礎英語 医療英語 文化社会学 心理学 専門基礎分野 公衆衛生学
	4 5	人と防災未来センター見学	病院災害と防災対策マネジメント 活動時の課題		専門分野
	1 2	災害時に必要な看護技術	災害時の救護活動に必要な看護技術 事例を用いる ① トリアージ ② 応急(究明)処置 ③ 搬送・移送技術 ④ その他	演習	看護学概論 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ
	1	国際看護の必要性と課題	* 国際看護とは何か? * グロバリゼーションに伴う国際看護の必要性と、現状と課題 感染症の拡大、社会格差と健康格差 在日外国人 外国人看護師	講義	
	2	国際保健政策Ⅰ	* 日本と海外での出産を通しての異文化紹介 * プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション * ミレニアム開発目標	講義	
	3	国際保健政策Ⅱ	* 人間の安全保障 * 途上国における健康課題 背景にある社会、文化、伝統、保健医療	講義	
	4	保健医療分野における国際機関と日本の国際協力の現状	* 国際機関の種類と役割 * WHO(世界保健機関)の目的と活動 * 日本のODA(政府開発援助)の形態と活動状況	講義	
	5	国際協力活動の実際Ⅰ	JICAシニア海外ボランティアの活動を通して HIV/エイズに関する状況と文化的背景	講義	
	6	国際協力活動の実際Ⅱ	JICA専門家の活動を通して HIV/エイズに関する状況と課題、梅毒について	講義	
	7	ボツワナの国事情とHIV/エイズ問題、シエラレオネの国事情と保健医療問題	* 現地の人たちにとって必要な国際協力とは何かをその国の社会・文化から考える * 異文化コミュニケーションで大切なこと		
	15	筆記試験	筆記試験		
	評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院			

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	看護管理・看護倫理	単位 1単位	看護におけるマネジメントについて学ぶ また医療や看護場面で起こる倫理的問題について学ぶ		
担当講師	植田 みゆき 看護師臨床経験:10年以上 西原 伸美 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	看護とマネジメント	看護管理学とは 看護におけるマネジメント	講義	基礎分野 マネジメント論 哲学
	2	看護ケアのマネジメント	看護ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利の尊重	講義	
	3		安全管理 チーム医療 看護業務の実践	講義	専門基礎分野 保健医療論 社会福祉 I
	4	看護サービスのマネジメント	看護サービスのマネジメント 組織目標達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり 人材のマネジメント 施設・設備環境のマネジメント 物品のマネジメント 情報のマネジメント 組織におけるリスクマネジメント サービスの評価	講義	専門分野 看護学概論 看護研究 地域・在宅看護概論 地域・在宅看護概論 訪問看護の看護過程 訪問看護と看取り
	5	看護を取り巻く諸制度	看護の定義 看護職 医療制度 看護政策と制度 マネジメントを考える 組織マネジメントを考える	講義	成人援助論 I 成人援助論 II 成人援助論 III 成人援助論 IV 成人援助論 V 老年看護学概論
	6		組織マネジメントを考える	講義	老年援助論 III
	7		看護組織をマネジメントする	演習	小児看護学概論 母性援助論 III
	8	看護の本質と倫理	倫理とは、生命倫理とは、看護倫理とは 看護ケアの構造、ケアとケアリング 看護の倫理原則 アドボカシー ケアリング	講義	精神看護学概論 精神援助論 III
	9		専門職の倫理 倫理的問題へのアプローチ法		医療安全
	10	成人期の看護実践と倫理	急性期の看護～移植医療 がん看護～積極的治療・緩和ケア 身体抑制と看護	講義	
	11	老年期の看護実践と倫理	認知症高齢者の看護と倫理		
	12	母性の看護実践と倫理	母性看護の倫理～遺伝看護と倫理	講義	
	13	小児の看護実践と倫理	小児看護における倫理的問題		
	14	精神看護と倫理	急性期に生じる倫理的問題		
15	在宅看護と倫理	在宅看護における倫理的問題	講義		
16	看護研究と倫理	看護研究の特質と倫理			
17	看護倫理の課題と展望	看護倫理の独自性と確立 看護倫理の教育・研究の課題と展望	講義		
18	終講試験	筆記試験			
評価方法	看護管理:筆記試験(5割) 看護倫理:筆記試験(3割)、演習(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院				

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	看護の統合と実践	単位 1単位	これまでの看護実践を通して構築した看護に対する考え方をもとに、看護実践能力の主軸となる看護実践の技術的側面と、看護実践の問題解決的側面の到達度を評価し、看護師としての課題を明確にできる		
担当講師	佐野 和美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間			
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる				
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
	6 看護実践を振り返り新しい知見を得て、人々の健康と豊かな生活に寄与することができる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	看護の統合と実践とは	各看護学の統合、看護実践能力、メタパラダイム 医療安全、マネジメント	講義	基礎分野 心理学 人間工学
	2	臨床現場における推論	推論の必要性、臨床推論のプロセス	講義	人間関係論演習 マネジメント論
	3	事例検討:A	事例Aに対するアセスメント ①健康知覚-健康管理と必要のあるアセスメントを フォーカス	グループワーク	文化社会学 哲学 教育学
	4		事例Aの推論を基に実施・評価	演習	
	5	事例検討:B	事例Bに対するアセスメント ①健康知覚-健康管理と必要のあるアセスメントを フォーカス	グループワーク	専門基礎分野 生化学
	6		事例Bの推論を基に実施・評価	演習	看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床薬理学
	7	事例検討発表	事例A・Bについての推論を基に発表	発表	
	8	臨床現場における多重課題	多重課題のパターンとその対処	講義・演習	
	9	事例Aの看護問題・看護計画	事例Aの看護問題抽出	グループワーク	専門分野 基礎看護学 家族看護論 成人看護学 老年看護学
	10		事例Aの看護計画立案 1日のスケジュール立案と多重課題への対応	演習	医療安全 看護管理・看護倫理
	11	事例Bの看護問題・看護計画	事例Bの看護問題抽出	グループワーク	
	12		事例ABの看護計画立案 1日のスケジュール立案と多重課題への対応	演習	
	13	シミュレーション演習	初期把握、優先順位の決定、看護実践	演習	
	14	リフレクション	知識、技術、態度の振り返り 自己の課題の明確化	演習	
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(5割)、レポート・学習状況(5割:事例展開・発表・シミュレーション演習) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	新体系看護学全書 統合分野 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メジカルフレンド社 新改訂版 実践に生かす看護理論19 サイオ出版 その他系統看護学講座 必要と思われるテキストすべて 医学書院				